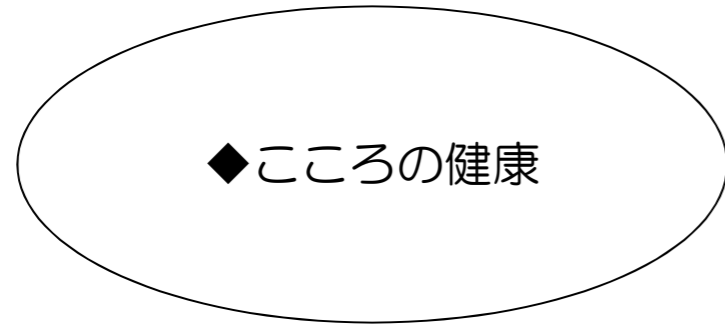


V 7つの重点的健康課題における取組



子どもをとりまく現状	
大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内で子どもと「毎日挨拶する」割合が増加している ・子どもと「毎日会話する」割合が増加している ・子どもと「家族の中でルールや規則（役割や就寝時刻、ゲーム使用、TV視聴時間等）を決めている」割合が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みを抱えた時の相談相手として、学年があがるとともに「家族には相談しない」割合が増加している ・1日に「メールやパソコン、ゲームをする時間、テレビを見る時間」が3時間以上の割合が増加している ・「朝すっきり目が覚める」割合が減少している

めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・自分を大切にし、他者を思いやることができる子ども ・ストレス対処能力を身に付けることができる子ども ・自分の考えや気持ちを効果的に相手に伝えることができる子ども ・情報を正しく選択・判断し、マナーを守ることができる子ども

行動計画・行動指針		具体的な取組例
学 校	心の教育の充実（発達段階に応じた学校全体での取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康について理解を深められるよう授業づくりの工夫をする。（道徳・体育） ・多くの人との関わりにより、自分自身の心のコントロールの仕方を学べるよう支援する。 ・情報モラルについて、発達段階に応じて学習する。 ・医療現場からのメッセージ教室（金沢大学連携事業）を実施する。
	学校内における相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康観察を組織的に充実し、心身の様子等から問題に対して早期発見・早期対応に努める。 ・プライバシーの保護に配慮した相談室の環境づくり・相談体制の充実に努める。 ・不登校やその傾向が見られる場合に、早期に相談体制を整え、関係づくりと対応の充実に努める。 ・各専門機関との連携強化に努める。
	やすらぎの場や雰囲気がある学校環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓の行きとどいた清潔感のある学校環境の整備に努める。 ・登校時の挨拶運動など、子どもどうしが協働することで、関わり合いが深まるよう努める。
	保護者に対する啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講演会の開催や保護者が相談しやすい体制づくりに努める。 ・子どもの携帯電話・スマートフォン等の所有の影響についての啓発に努める。
家 庭 （ 地 域）	子どもとの会話やふれあいの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの行動に関心を持ち、出来事・友達・学校のこと等意識して親子の対話を心がける。 ・「おはよう」「ただいま」「おかえり」「おやすみ」などの挨拶に親子ともに心がける。 ・地域において親子で参加できる活動の推進に努める。 ・地域において挨拶を行う雰囲気づくりに努める。 ・子どもと、パソコンや携帯のフィルタリングや取り扱いのルールづくりについて話し合う。
	規則正しい生活リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で、十分な睡眠をとり、早寝、早起き、朝ごはんに努める。 ・子どもの習い事が過度にならないよう気をつける。 ・メールやパソコン、ゲームをする時間、テレビを見る時間を家族で決める。
	子どものこころの変化の早期発見・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、コミュニケーションを図り、子どもが相談できる関係を育む。 ・子どものからだの変化や発育測定・健康診断の結果に関心を持つ。
行 政	気軽に相談できる相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市教育プラザ、金沢総合健康センターの相談事業の啓発に努め、利用促進を図る。 ・相談に関わる専門家の充実を図る。
	保護者を対象とした子どもの心を理解するための啓発活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心を理解するための講習会などの開催事業の充実・拡大を図る。 ・子どもの心の健康に関連する図書、ビデオ、DVD等の整備や充実を図る。
	いじめ、不登校、児童虐待等の対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを持つ保護者間の意見交換の場を設定するよう努める。 ・相談員による定期的な家庭訪問などを含めた相談体制の確立を図る。 ・ネットや携帯メールの掲示板の監視、ブログ等の規制により、いじめの未然防止に努める。 ・教職員の研修の充実により、理解の向上を図る。 ・いじめ110番、体罰110番など相談先の周知、相談先の拡充を図る。 ・医療現場からのメッセージ教室（金沢大学連携事業）を推進する。

◆体力の増進

子どもをとりまく現状

大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> 「子どもに体を動かして遊んだり、運動をしたりするように普段からよく働きかけている」割合が減少している 「子どもと一緒に体を動かして遊んだり、運動をしたりするようによく心がけている」割合が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> 日ごろ、学校の授業以外で、自分の体を動かして遊んだり、運動したりすることを「毎日している」割合が減少している

めざす子どもの姿	行動計画・行動指針	具体的な取組例	
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動に親しみ、進んで体を動かすことができる子ども 自分にあった体力づくりを継続して行うことができる子ども 進んで他者と共に遊びや運動を楽しむことができる子ども 	学 校 運動の楽しさが味わえる授業づくりの工夫 授業以外の時間を活用し、楽しく体力向上を図る工夫	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果から、実態を把握し、運動能力・体力を高める授業づくりに努める。 運動の楽しさが味わえるように指導の工夫に努める。 運動への関心を高め、主体的に運動に取り組めるように授業づくりに努める。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 学校ごとに特徴ある運動の実践を行い、体育的行事の開催の促進に努める。 新体力テストの結果等を活用し、個々の目標を設定し、達成の喜びが味わえるよう指導する。 休み時間等に、楽しく体力づくりができる場所の確保・体力づくりの方法の啓発に努める。 一種目のスポーツだけでなく、複数のスポーツに親しむよう指導に努める。 トレーニング方法を工夫し、継続的な活動を通して、部活動の充実に努める。 体力づくり1校1プランの評価を行い、現状にあわせた取組を行う。 	
	家 庭 (地 域)	体力づくりの重要性の認識	<ul style="list-style-type: none"> 朝食摂取やテレビの視聴時間等普段の生活が体力づくりに関係があることを理解するよう努める。 友達と一緒に外遊びができるよう心がける。 地域において体力づくりを図るための活動を推進する。
		子どもと一緒に体を動かす機会の増加と 体を動かす楽しさの共有	<ul style="list-style-type: none"> 散歩、ラジオ体操、縄跳びなど簡単にできることから一緒に始める。 近距離の移動はできるだけ徒歩にし、階段の利用に努める。 休日等には、子どもと一緒に体を動かすような活動やスポーツに努める。 体をともに動かしコミュニケーションを深める。 夏休み期間のラジオ体操等を家族で積極的に参加するように努める。
	行 政	体力づくりのための啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力や運動能力が向上するような事業や指導者の研修の充実に努める。 新体力テストの実施により、各学校での結果の活用を図るよう指導に努める。 大人と子どもが一緒に参加できるスポーツチャレンジやイベントの開催に努める。 ウォーキングやサイクリングの奨励、コースの紹介などに努める。
		遊びや運動ができる広場等の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングコースやサイクリングコースなどの環境整備に努める。 広場の遊具などの充実に努める。 運動場を開放するとともに、スポーツや遊びの指導員の養成に努める。

◆けがの防止／
病気の予防

子どもをとりまく現状	
大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> 「万一の災害や事故に備えての対応について子どもと話し合っている」割合が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 顔面や頭部のけがが増加している 「すり傷や切り傷などのけがの時、自分で応急手当ができる」割合が増加している 「火事や地震等がおきたときに、自分の身を守るために何をすればよいかよくわかる」割合が、学年があがるとともに減少している

めざす 子どもの姿	行動計画・行動指針		具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 自他の危険を予測・回避することができる子ども けがや事故に遭ったときに適切な対処ができる子ども 感染症への予防行動（手洗い、うがい、咳エチケット、抵抗力を高める等）ができる子ども 適切な生活リズムを身に付けることができる子ども 	学 校	安全教育の充実（発達段階に応じた学校全体での取組）
感染症対策の推進			<ul style="list-style-type: none"> 学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生検査の実施と学校衛生環境の整備に努める。 <p><小学校低学年> ・うがい、手洗い等身体を清潔にすることで病気が防げることを理解する。</p> <p><小学校高学年> ・病気の発症について理解する。</p> <p><中学校> ・感染症の成り立ちと予防について理解する。</p>
家 庭 （ 地 域 ）		様々な遊びや活動の体験	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で思い切り遊ばせ、野外活動を体験させる。 できるだけ友達と屋外で遊ぶよう習慣づける。 大人が先回りして危険回避しすぎないように心がける。
		安全・安心に向けた環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ヘルメット着用など自転車の安全利用や水泳、水遊び等、校外生活での事故防止と対応について教える。 登下校時など子どもの安全を見守るボランティアに積極的に参加する。 心肺蘇生法やAEDの使用を含めた救急講習会に参加する。
		感染症の周知と予防に向けた生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 地域の感染症情報の収集に努める。 感染症の発生時には家庭で十分な休養をとり、治療に努めるとともに、友達等他へうつすことのないよう予防方法を教え、実践に心がける。（マスク着用による咳エチケット等） 麻しんなどの定期予防接種が実施されているものは、適宜の接種を心がける。
行 政		けがの防止／病気の予防に関する啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> けがの防止と手当に関する講習会や、交通安全に関する講演会の開催・内容の充実を図る。 危機管理マニュアルを見直す。 金沢市保健所や福祉健康センターと協力し、感染症の情報の早期把握や感染症の理解や予防方法の普及啓発に関する取組の充実を図る。 金沢市薬剤師会の協力による手洗い指導教室の開催に努める。 感染症に関する情報の迅速な提供を図る。 予防接種が受けやすい環境の整備を図る。
		安全・安心に遊び、学べる環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 学校薬剤師会と連携し、学校環境衛生検査の実施と学校衛生環境の整備を図る。 通学路、ウォーキングコースやサイクリングコースなどの安全点検・整備を図る。 広場の遊具などの安全点検・整備の充実を図る。 災害発生時の心のケアも含めた防災体制の充実を図る。

◆食育

子どもをとりまく現状	
大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> ・食事において、「栄養バランスをよく心がけている」割合が減少している ・朝食を摂取しない大人が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べる割合が増加している ・給食残食率が減少している ・食物アレルギー疾病を持つ児童生徒が増加している

めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・一日3回の食事を規則正しく摂ることができる子ども ・栄養のバランスを考え、適切な量の食事を摂ることができる子ども

行動計画・行動指針		具体的な取組例
学 校	食育の充実(発達段階に応じた給食指導や家庭科をはじめとした各教科、特別活動などによる学校全体の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する年間指導プランを作成し、実践する。 ・栄養教諭、学校栄養職員を活用したティームティーチングによる指導に努める。 ・給食をゆっくり噛んで食べられるよう給食時間の配慮に努める。 ・食物アレルギーに対する児童生徒の情報を共有し、適切な対応に努める。 <p><小学校低学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の大切さを理解する。 ・給食を好き嫌いなく食べるよう指導する。 <p><小学校高学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活が心身の健康に大切であることを理解する。 ・間食の取り方を理解する。 ・偏食について指導する。 <p><中 学 校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい食習慣について理解する。 ・身体の発達に必要な栄養とバランス良い食事について理解する。 ・食生活の自己管理ができ、メタボリック症候群の予防ができるよう指導する。
	思春期の子どもに対しての、間違ったダイエット志向の危険性の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の健康とダイエットの関係について理解させる。 ・学校保健センターを活用し、適正体重や急激なダイエットの危険性について親子教室の参加を啓発する。 ・定期的に身体計測を行い、体重減少者の早期発見に努める。 ・自分の身長や体重の変化について関心を持ち、正しい理解ができるよう指導する。
家 庭 (地 域)	一日三食の規則正しい生活リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・一日3回の食事を摂ることの大切さを認識して食事の準備を心がける。 ・ゆっくり噛んで食べる習慣をつける。
	家族一緒に楽しい食事	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒に食べるよう心がける。 ・家族全員が、余裕をもって起床し、朝食にゆっくり時間をかけるよう努める。
	栄養バランスのとれた食事や間食	<ul style="list-style-type: none"> ・主食、主菜、副菜をそろえて摂るよう心がける。 ・食べ物の好き嫌いをしないように努める。 ・ファストフードやインスタント食品だけに頼らないように努める。 ・食生活の自己管理ができ、メタボリック症候群や摂食障害の予防ができるように努める。
	手作りの家庭の味	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りの料理の楽しさ、おいしさを味わうよう努める。 ・子どもと一緒に買い物をしたり、食事の準備をしたりするよう努める。 ・地域の産物や旬の食材を使った料理をつくるよう努める。
行 政	食に関する啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や学校栄養職員による食育の推進を図る。 ・学校給食だより、インターネットのホームページなどを通して、バランスのとれた食事献立の啓発を図る。 ・学校給食への理解を深めてもらうため、給食試食会の支援に努める。 ・学校保健センターと連携し、子どもの身体の発育における適正体重について親子教室の推進を図る。
	学校給食の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な学校給食が実施できるように、給食の衛生管理を徹底し、配膳設備の整備を図るよう努める。

◆歯・口の健康

子どもをとりまく現状

大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> 「間食の量や質に関してよく気にかけている」割合が減少している 「よく噛むことを気にかけている」割合が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> う歯治療率が増加している 歯列・咬合の問題をもつ子どもが増加している 思春期の歯肉炎罹患者が増加している

めざす 子どもの姿	行動計画・行動指針		具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> う歯や歯肉炎を予防するために、正しい歯みがき習慣を身に付けることができる子ども 口腔の衛生に関心を持ち、歯・口の健康を守ることができる子ども 	学 校	歯科保健教育の充実（発達段階に応じた学校全体での取組）
歯・口の健康に関する啓発活動の推進			<ul style="list-style-type: none"> 学校歯科医との連携に努め、歯科医や歯科衛生士による講習会等の開催について、拡大・充実に努める。 むし歯予防月間を活用して、学校における取組や家庭での歯みがき習慣の啓発に努める。
家 庭 (地 域)		歯・口の健康についての関心	<ul style="list-style-type: none"> 歯・口、噛むことの大切さについて理解する。 う歯や歯肉炎、口腔の異常が疑われる場合は、医療機関に受診する。 定期的に歯科検診を受けさせ、子どもの歯・口の状況を把握する。
		歯みがきの習慣	<ul style="list-style-type: none"> 歯みがきが、むし歯と歯周病の予防につながることを理解する。 家族全員が食後の歯みがきをすすんで行う。 子どもに正しい歯みがきの仕方を教える。
		食事及び間食の内容や摂り方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 良く噛んで食べる食材の使用や調理方法の工夫に努める。 甘いお菓子や柔らかいお菓子を過剰に食べないように努める。 間食の量や時間を決める。
行 政		歯・口の健康に関する市歯科医師会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 金沢市歯科医師会による歯みがきや歯周病予防に関する講習会等の開催に努める。 「いい歯大好き！学校審査会」に参加し、児童生徒の歯・口に関する興味関心を高める研究や歯科指導に取り組む学校を表彰する。 学校歯科医との連携の促進に努める。
		歯・口の健康についての啓発活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 歯・口の健康に関する図書・ビデオ・DVD等の整備や充実を図る。 「いい歯大好き！！学校審査会」などの表彰事業の推進や拡大を図る。 歯みがき指導教室の開催の拡充を図る。

◆性に関する指導（生命尊重）

子どもをとりまく現状

大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> 「生命（いのち）を大切にするよう、話したりするようによく心がけている」割合が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体つきや成長に「とても関心がある」割合が、学年があがるとともに減少している 自分の体つきや成長について「家族に相談する」割合が、学年があがるとともに減少している 「誰の命であっても、大切と思う」割合が増加しているが、学年があがるとともに減少している

めざす子どもの姿	行動計画・行動指針	具体的な取組例	
<ul style="list-style-type: none"> 正しい性知識を持ち、自らの行動について判断ができる子ども 生命の尊さを大切にできる子ども 自己肯定感をもつことができる子ども 	学 校 性に関する指導の充実（発達段階に応じた学校全体での取組、こころの健康と関連づけて取り組む）	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で発達段階に応じたカリキュラムを作成し、計画的に行う。 <小学校低学年> <ul style="list-style-type: none"> 男女の身体の違いについて理解する。 自分や相手を大切にしようとする心情や態度を育む。 性被害の防止について指導に努める。 <小学校高学年> <ul style="list-style-type: none"> 心身の発達には男女差や個人差があることを理解する。 性に関する不安や悩みへの対処の仕方について指導に努める。 <中 学 校> <ul style="list-style-type: none"> 人間の性について科学的に理解する。 エイズや性感染症の予防について理解する。 性情報への適切な対処、欲求やストレスの対処の仕方について指導に努める。 	
		自分を大切にする教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自己の性を受容し、自他を大切にしようとする心情や態度を育てよう努める。 健全な自尊心を高めるための教育の充実を図る。 年間指導プランの中に「自尊感情」「自立心」を確実に位置づける。
		性に関する指導内容の周知	<ul style="list-style-type: none"> 性教育に関する教材など、学校の指導内容を保護者に知らせる。 性教育に関する参観日の設定や保護者懇談会の開催に努める。 保護者対象の性教育に関する講習会の開催に努める。
	家 庭 （地 域）	子どもの性に関しての十分な説明	<ul style="list-style-type: none"> 普段から家庭内の会話を大切にし、自由な話し合いができる雰囲気をつくるよう努める。 保護者が、性について正しい知識を持ち、的確に説明できるよう努める。 身近な人、生物の生と死など命の大切さについて話を聞かせるように努める。
		子どものこころや体の変化への気づき	<ul style="list-style-type: none"> 思春期における子どもとのふれあいを大切にする。 二次性徴の現れを子どもと共に理解する。 子どもの言葉遣い、服装、交友関係などを把握するよう努める。 会話の時間を多くとるよう心がける。 パソコンや携帯電話の使用にはルールを決め、有害情報を防ぐ機能の活用を努める。
	行 政	正しい性情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く性情報の提供やインターネットやメール等の出会い系サイトへのアクセス制限により、性犯罪の未然防止に努める。 エイズ等の性感染症に関する啓発活動の推進に努める。 性教育に関連する図書・ビデオ・DVD等の充実を図る。
		性に関する相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 性に関する悩みを持つ子どもに対する支援活動の充実を努める。 金沢市教育プラザなどにおける相談事業の利用促進を図る。 学校保健センターにおける専門家事業の利用促進を図る。

◆喫煙・飲酒・薬物乱用防止

子どもをとりまく現状

大人の意識・行動	子どもの実態
<ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内禁煙が周知徹底されている ・「家族の中でたばこを吸う者はいない」割合が増加している ・家庭でたばこやお酒を手にしなないための配慮を「特になにもしない」割合が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> ・「20歳以上になってもたばこは吸わないと思う」割合が増加している

めざす 子どもの姿	行動計画・行動指針		具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙・飲酒・薬物乱用の誘惑に負けない子ども ・喫煙・飲酒・薬物乱用の害について正しく理解できる子ども ・薬の正しい使い方について理解できる子ども 	学 校	学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実 (発達段階に応じた学校全体での取組)
学校の無煙化（平成16年1月より実施）			・敷地内全面禁煙についての保護者・地域の協力体制の維持に努める。
家 庭 (地 域)		大人自身の喫煙・飲酒・薬物乱用の害について理解	<ul style="list-style-type: none"> ・身体に対する影響など、喫煙・飲酒・薬物乱用に関する情報を得よう努める。 ・受動喫煙の害について理解する。 ・「保護者と共に取り組む受動喫煙防止講座」に積極的に参加する。
		家庭でのたばこやお酒の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・家の中に余分なたばこやお酒を準備して置かないよう努める。 ・子どもが触れないように、危険性を伝える。
		家庭での喫煙・飲酒、医薬品への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの前では喫煙しないように努める。 ・子どもの前では適正飲酒に努める。 ・家庭にある医薬品の配置に注意し、適正な使用に努める。 ・登下校時の通学路で歩きたばこをしない。 ・金沢市ばい捨て等防止条例（略称）の趣旨を理解し実践する。
行 政		喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する市医師会及び市薬剤師会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や教職員を対象とした禁煙に関する講習会などの開催に努める。 ・学校における薬物乱用防止教室の開催の支援を図る。 ・「保護者とともに取り組む受動喫煙防止講座」事業を推進する。
		喫煙・飲酒・薬物乱用防止についての啓発の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関するポスターの募集など啓発事業の充実を図る。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する図書・ビデオテープ・DVD等の充実を図る。
		公共施設の無煙化（平成16年1月より実施）・ 受動喫煙防止対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の通学路で歩きたばこをしないように啓発する。 ・金沢市ばい捨て等防止条例（略称）を普及・促進する。